

# J S C A 九州 支 部

発行・日本建築構造技術者協会九州支部

福岡市東区香椎駅東 1-38-6-103

TEL 092-692-8738 / FAX 092-692-8739

Web Site : <http://jscakyushu.jp/>E-mail : [info@jscakyushu.jp](mailto:info@jscakyushu.jp)

## 平成 23 年度 通常総会報告

5月13日、J S C A 九州支部の「平成 23 年度通常総会」が福岡市中央区のタカラホテル福岡において開催されました。まず司会の原さんより定数確認の報告がなされ、支部正会員 368 人中、出席 55 名 + 委任状 93 名 = 計 148 名の出席をもって総会の成立が宣言され開始されました。まず、尾宮支部長が挨拶に立ち、東日本大震災を受け、J S C A の果たすべき役割について言及され、「我々の職能を發揮することが一番の社会貢献であり、創造的な安全、安心な建物を提供するため、今まで以上に研鑽を積み、地道に構造設計に取り組んでいきたい。また、より社会との接点を拡げるための活動にも着手したい。」と表明された。

その後、議長に森田さんが選出され議事審議に入り、平成 22 年度の事業報告・収支報告が事務局の渡部さん、山下さんより報告され、また監査結果も適正であったことが石松さんより報告され、拍手をもって全会一致で承認された。

次に、平成 23 年度の新組織紹介と事業計画が尾宮支部長より今年度事業計画の内容として、

- ① 支部、各地区での見学会、講習会の開催
- ② J S C A 本部、若手構造設計者向け、ニア構造設計者向けの講習会の開催
- ③ 福岡県建築住宅センター、福岡市、北九州市、その他行政庁からの講演・技術相談依頼
- ④ 鋼構造サブネットワーク、「設計式勉強会」の講習会開催
- ⑤ J S C A 会ゴルフコンペ
- ⑥ 役員会を年一回九州各地区巡回（今年度は鹿児島地区予定）
- ⑦ 福岡市耐震補強検討評価委員会技術相談依頼
- ⑧ J S C A 構造デザイン発表会（九州支部より本選へ作品を出品）

および関係団体との相互交流などの実施する。

また、支部組織を一部変更し、これまで専門委員会であった耐震改修促進委員会を常設委員会に格上げし、従来の事業・会員委員会、技術委員会、編集ホームページ委員会の 4 本柱で活動を展開することが報告された。

平成 23 年度の支部予算案も満場一致で可決された。

その後、各地区会活動報告がそれぞれの地区幹事より報告され、沖縄地区では工業高校での講話、佐賀地区では県内初の免震構造の県立病院の見学会を計画し、熊本地区では、P C a P C 工法の体育館見学会を予定しているとの報告があった。また宮崎地区では構造技術者の高齢化進んでいることへの危惧などが報告され、この問題は他の地区でも同様で今後、若手技術者の育成を考えていく必要が提起された。

以上で、総会は無事終了した。

## 記念講演会

### 「ラグビーを通じて、次世代へ！」



福岡高校ラグビー部監督 森 重隆氏

#### はじめに

元新日鉄釜石にて、ラグビー日本選手権四連覇した後、福岡に帰り父の経営する森硝子店に入社。平成8年、母校の福岡高校ラグビー部監督に就任し、今年28年ぶりに母校を全国大会花園ラグビー場に出場させる快挙を成し遂げられた、森 重隆さんを講師に招き「ラグビーを通じて、次世代へ！」というテーマにて記念講演会が催されました。

3月11日の東北地方大震災を受けた釜石への思いとラグビーへの情熱を語っていただきました。紙面にてその実況ダイジェストをお読みください。

#### ■ リーダーについて

明日（5/14）に釜石を訪問し、明後日は盛岡での復興支援の試合も観戦する予定です。復興支援試合を開催するという連絡してきた2年後輩の松尾に「今年やるなら、来年も、またその次も継続してやれ、今年限りであればするな！」、「チャリティーは今年限りの一過性で来年になったら忘れられるような、そういうことはするな！」と忠告しました。

「日本全体がそういった風（一過性で終わる）になっていくのを見ると寂しく感じる。それもこれも今の世の中が政治も含めて、何となく情けないというか・・・。鳩山、菅（首相）が、監督なら、間違いなく一回戦敗退になると感じる。基本的なことがまったく判っていない！」 「リーダーというのは、たぶん地位とか名誉とかに無縁の人で、そこにいる選手をちゃんと愛せるかどうかではないのか？。まず、あの人たちは、スポーツのリーダーになれないひとは、政治のリーダーにもなれないのではないか？。人を動かすのは、愛する心を判っている人でないとリーダーになってはいけない」、ということを毎日テレビをみながら思っています。この人ならついていっても良いと思われるの天皇陛下ぐらいなもの。人間を愛する心のある方であらせられる。

#### ■ 花園出場について

明治（大学）から訳あって（新日鉄）釜石に行き、福岡に30歳の時に帰ってきて、おもしろく、楽しく、つらいことなどない生活していたのに、40歳で福高のラグビー部監督をやれといわれ、自分の自由な時間を奪われてしまい、日曜もないのはいやだと思いました。そしてコーチを4・5年経験して監督になりました。夢は何だと問われ、「全国大会の花園ラグビー場に連れて行くのが目標だ！」って言った。ところが、福岡には歩いて10分のところに「とんでもない、かんべんしてよ！」というような東福岡高校というのがある。今年も神奈川の桐蔭学園とともに優勝しました。この高校があるかぎり出場はできない。でも、いつまでもずっと続くかといったら、そういうことはないことを歴史が証明している。（新日鉄）釜石が7年で終わって、東芝とかトヨタとかサントリー、そして神戸製鋼が7連覇して強くなっていた、そういうときが必ず来る。高校だって、啓光学園がそうであったように、必ず弱くなるときが来る。間違いない！去年の4月の段階で来年は90回の記念大会であり、今までがんばった福岡県には2校出場にしてあげるという決定がされ、福岡・神奈川・愛知・埼玉の4県が各2校の出場枠をもらえた。ひょっとしたら行けるかもしれないと思った。ライバルの筑紫丘高校、ここはそれまで7年間決勝で東福岡に負けていたが、去年だけ筑紫丘は弱かった。かわり



にこちらにチャンス！運があった。他に小倉高校が強かった。そこで勝ための作戦を立て、東福岡の監督に頼んで1週間の出稽古を行ったが、その1週間で骨折が3人出てしまった。驚いたのは、東福岡は部員の気持ちいい“あいさつ”と用具などの“整理整頓”が行き届いていた、さらにキャプテンが便所掃除までしている。そんなことをすれば強くなれるかというと、そうはならないかもしれないが、強いところがそういったことをしたらもうかなわない。脇が甘いところに付に入る隙があるので、そういったところが見当たらない。もう脱帽！確かに、高校野球とか見ても強いチームは“整理整頓”しているし、何かすがすがしい感じがします。

28年ぶりに花園に行けると決まってから、1ヶ月は金集めに奔走しました。初出場と同じようなものだから、どうやったら良いのか判らず、苦労しました。今まで一度もOB会に出席したことがない、あるOBまでがポンと寄付金を出してくれたのは、うれしかった。その人は、「ラグビーをやったことが人生を変えてくれた」、「ラグビーで泣いたり、笑ったり、汗をかいりしてスポーツの良さを学んだ。ラグビーのおかげだ！」という気持ちを伝えてくれた。

大会は、1回戦で東京の本郷高校と対戦し、花園で初戦突破しました。2回戦は、優勝候補の大坂朝鮮高校と対戦し、善戦したが12:48で敗れた。大会では怪我人が多くなるため、勝抜こうとしたら部員の多い学校が有利。ベスト4とかには部員の多い私立高校でないと残れない現実があり、子供たちを中心に大会を考えてほしいと要望したが、2回戦敗退じや説得力がなく、情けなくなった。

2019年にラグビーのワールドカップが日本で開催される。現在日本は世界で12から13位ぐらい。しかも外人が7人もいる。高校生の強化で何とかベスト8に残りたいものと思っています。福高ラグビー部の花園出場は、偶然が重なって、中学からラグビーをやっていたと突出した学生3人が入学してきました、他の周りの連中も3年間で追いつくような能力を持っていた。そして2校の出場枠、そういったラッキーが重なったことによる。こうやって福高が全国に出場できたんで、他の高校も行けるんじゃないかと励みになればと思っています。それでも今年の新人は11人だけでした。泣いたり、笑ったり、汗をかいり、そういったことをとうして、人間、経験した人と、経験しなかった人は、大人になって差がつくんじゃないかと僕は思っています。

### ■ 教育問題について

福岡市の教育委員をやっていた時に経験した、教科書問題、教師採用問題、親の意識の問題、モンスターペアレント（学校などに対して自己中心的で理不尽な要求をする親）などについて例を挙げて、おもしろく、また熱っぽく語っていただきました。そして、「どうしてこんな世の中になってきたのか、よくわからない」と嘆いておられました。

釜石での8年間の思い出について、「きつい練習をしないと日本一になれない、乐しては絶対勝てない!、死ぬほど練習しないと勝てない、そうったことを教わった。乐してうまくなる事はまずない。新日鉄釜石は、部員31名の小集団、朝8時から午後4時半まで仕事し、5時から7時までの2時間の練習、その間ずっと走っていた。妥協しない、同じ共通の目標をもってやった。“やり続ける”そういう気持ちを持ち続けるチームであった。」と語られた。また、そういったことに関連し、3月11日に東日本大震災を受けた東北の状況をテレビで見て、釜石での経験を踏まえ、東北の人々の寡黙さ、我慢強い気質なども話された。「そういうチームにいて経験したことが、今高校生を指導する上でも役立っている。僕は“ヘタ”、“ダメ”とあきらめず、やり続ける、し続けると、そうしたら必ずうまくなるということを経験してきたからいえる気がするわけで、ものすごく、きつい練習をしなくてはならないが、きついばかりでもいけない。やる続け、努力し続ける能力、これが天才である証です。天才は練習しないと天才の能力を失しまってしまい、天災ではなくなってしまう。やり続けるとチームに“魂”みたいなものが宿る。そこまでいないと勝てないのでないかと思う。もう一つ思うのは、自由に、やらせれば能力は伸びると思っている人がいますが、中・高校生に大事なのは矯正であり、負けたりしたとき、悔しさなどが出て、初めて自主性がでてくる。最初から自主性を期待してはいけない。矯正してあげて、自主性が養われるのです。

#### ■レフリーについて

レフリーにも規準があるが、世の中と同じで試合中に反則を見逃さなかつた、“見たぞ”と笛をピーー、ピーー吹くレフリーが良いレフリーと思われているようだが、僕の思う良いレフリーとは、ゲームの流れを通して、おもしろくジャッジし、結果としてよいゲームだったと思わせるひとだ。人のミスや不手際を見たら、見逃さない人が良いのではなく、世の中のレフリーも、そういうレフリーでなくてはならないし、そういうレフリーが出てきてほしいといつも思っています。“ピッピー、ピー”と笛を吹くレフリーミたいな人を見ると、「おかしいんじゃない！」といってしまいます。

「最後に、自分の経験を人に伝えていくことが自分の役目だと思っています。またどこかでお会いする機会があつたら気軽に話しかけてください。」と、最初に30分しか話せないとおっしゃっていたが、1時間以上を熱っぽく語っていただきました。

## 新地区会幹事紹介



北九州地区幹事

(株)大建設設計 高嶋 千年

平成23年度JSCA北九州地区会幹事を仰せつかりました、高嶋と申します。これから会員の皆様、また関係者の皆様には様々な面でお世話様になると思いますが何卒宜しくお願い申し上げます。

また、過日の東日本大地震による未曾有の被害は、東北・関東地方はもとより全国的にも大きな影響を及ぼしているところであります。被災された皆様に心からお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、北九州地区会として今年度の活動は、森永前幹事をはじめとして役員の方々がこれまで築き上げてこられた活動を引き継ぎさらに発展させる様、以下の活動を通して微力ながら努めて参ります。

- ・会員相互の連携を緊密にして技術者としての資質の向上に努める。
- ・産・学・官の連携による講演会及び講習会の開催
- ・地区会員の増強及び若手技術者の育成
- ・建築設計の他団体との連携
- ・耐震診断・耐震改修の行政に対する積極的参画

国難とも言えるこの大震災に直面し、我々構造技術者として培った知識、経験、技術を更に研鑽して、一部構造技術者の不祥事により失ってしまった信頼を取り戻すためにも構造（耐震）の仕事を通じて「人の命を守る」専門家技術集団として、可能な限り社会にアピールして会員が一丸となり、信頼回復と地位向上に努め、この難局に立ち向かって参りたいと思います。

私共を取り巻く環境は厳しい時期ですが、会員皆様のご指導、ご協力を頂きその責務を果たして参りたいと思いますのでどうぞ宜しくお願いいたします。



## 新地区会幹事紹介



熊本地区幹事

(株)岩永組計 赤星 靖

この度、熊本地区の地区幹事という大役を仰せつかることになりました赤星と申します。微力ながら、諸先輩方のアドバイスをあおぎ、熊本地区会の活性化のために邁進していく所存であります。

大学卒業後、在京のゼネコンに20年弱勤めた後、9年前に郷里である熊本にUターンして参りました。歳をとるに従い、構造設計の業務も自分で手を動かすことから離れていくことに苦慮しながら、JSCAに所属することでよい自己研鑽の機会を得られていると実感しております。今後は、次の世代への橋渡し的な立場として構造技術者の育成になるような活動ができればと考えております。皆さま宜しくお願ひ致します。



宮崎地区幹事

大塚建築設計事務所 大塚 節生

今年から前幹事 川越さんから引き継ぎ、宮崎地区幹事となりました大塚 節生です。抱負としては、会員の増強を図り、JSCA会員になっていない構造一級資格者を全員入会していただくよう勧誘して魅力ある地区会にしたいと思います。特に当地では若手構造者が少なく、今後5年、10年先の宮崎県の建築構造を支える若手の育成が急務ではないかと考えています。できるだけ情報を集め講習会等を通じて参加を呼びかけたいと思います。

私は10年前から、弓道の魅力にひかれ週1回程度であるが、道場で練習をしています。弓道はただ弓を引き矢を的中させる競技だと思い弓道を始めましたが、単純な動作であるが故に、奥が深く自己統制と情緒の安定を要求され思うようになりません。弓道で言われる「真善美」を追求し、射品、射格を向上させ感動を与えられる射を目指して練習を重ねて行きたいと思います。なかなか練習時間が取れなく目指す射形には程遠い状態ですが一步、一步前進していかなければと考えています。

弓道は年齢、性別を問わず年老いても続けることができ、健康にも良く、背筋が伸びますよ（但し、肩は痛めます）皆様も始められては如何でしょうか。

## 懇親会報告

総会および記念講演会終了後、多数の正会員、賛助会員および来賓の福岡建築倶楽部皆様が集い、懇親会が盛大に催されました。



(尾宮 支部長挨拶)



(福岡建築倶楽部の皆様)



(上瀧 副支部長挨拶)



(会場風景)



(宮田 副支部長挨拶)



(金子技建:金子氏の万歳三唱)



(盛会な懇親会風景)



青年部会・なでしこ会の皆さん、ご苦労様でした！

#### 掲載記事大募集！！

正会員・賛助会員の皆様、この機関誌「JSCA九州メール版」へ何か掲載されませんか？！（広告など）掲載されたいかたは事務局までご一報をください。

#### 編集後記

遅くなりましたが、18号メール版を発行します。年4回の発行をめざしていこうと思っています。取材へのご協力を願います☆★  
(森田 記)